

8月29日（木）2校時 第2回避難訓練 校長の話

9月1日は「防災の日」です。

今から、101年前の1923年（大正12年）9月1日は、大きな災害「関東大震災」が起きた日です。この関東大震災では、地震の後の火事で、9万人以上の方が亡くなったそうです。

また、東日本大震災が発生してから、今度の3月11日で14年目を迎えます。この地震では、1万5900人もの方が命を落とし、そのうち90%の1万4000人以上が津波のために亡くなっています。

今年は、1月1日に能登半島地震が起きて、360人を超える方々が建物の下敷きになったり、火事で焼け死んだりしました。8月には九州で大きな地震があり、南海トラフ地震に関係があるかもしれないというニュースがありました。

日本は、大きな地震がたくさん起きる国です。いつでもどこにいても地震の被害に遭う恐れがあります。

そして、地震は、大きな揺れのほかに、そのあとに起きる「火事」や「津波」も大変恐ろしいのです。

土崎小学校は海の近くにあり、大きな地震が発生したときは、秋田市でただ一つ、津波が押し寄せる可能性のある学校です。ですから、津波警報があったときは、外には出ずに、3階、場合によっては屋上まで避難しなくてはなりません。

大事なことは、地震の多い日本の海に面した土崎の学校で生活する皆さんは、地震のあとに来るかもしれない、津波からも命を守る方法を身に付けていなければいけないということです。

今日は、

- ①地震発生とともに（身をかがめ）、（頭を守り）、（揺れが収まるまで動かない）こと。
- ②津波が来るときは、できるだけ早く、近くの高いところに逃げること
- ③学校にいたら、3階より上ににげることを学びました。

5月に行った1回目の避難訓練で「命は一つしかない。失った命は絶対に取り戻すことはできない、大切な命だ。だから、一人でも命を落としてはいけない。」と話しました。「命を守る」とは、訓練で学んだことを思い出して、安全に正しく行動することです。今日、訓練したことを忘れないで生活してください。